

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:20-21.

心臓手術を受ける患児の付き添い者の不安に対する看護師の介入について

大長 昂, 小野寺 舞, 桑島 萌

心臓手術を受ける患児の付き添い者の不安に対する看護師の介入について

旭川医科大学病院 4階西ナーステーション

○大長 昂 小野寺舞 桑島 萌

〔目的〕 A病院では平成28年度より小児の先天性心疾患に対する手術（以下、心臓手術）が開始された。心臓手術はリスクの高い手術であり、付き添い者の精神状態への影響も大きいため看護介入が必要だと考えられる。しかし、看護介入の内容については可視化されにくい。そのため、本研究の目的は、心臓手術を受ける患児の付き添い者の不安に対して実践している看護介入を明らかにすることである。

〔方法〕 A病院小児科・思春期科病棟に在籍している看護師22名を対象に無記名自記式の質問紙を用いて、アンケート調査を実施し、質的帰納的に分析した。本研究は当該施設の倫理審査委員会の承認を得て実施している。

〔結果〕 看護師経験年数2年目から22年目（中央値：5年目）の21名からアンケートを回収することができた。全対象者が付き添い者は不安を抱えていると回答し、看護介入が必要であると考えていた。また85%の看護師が現在、具体的な看護介入を実践していた。自由記載に関する回答をカテゴリー化し、カテゴリーを【 】で示す。看護師が予測する付き添い者が不安に思う内容について30個のコード、8個のサブカテゴリー、【手術の脅威】と【術後に伴う変化】の2つのカテゴリーが抽出された。実践している看護介入については32個のコード、8個のサブカテゴリー、【情報提供とインフォームド・コンセントの受け止めの確認】【情動支援】【安心感の強化】の3つカテゴリーが得られた。

〔考察〕 看護師は付き添い者が何らかの不安を抱えていると予測し、看護介入を実践していることが明らかとなった。実践している看護介入の内容については経験年数により付き添い者に関わるタイミングは異なるものの、看護介入の差は生じていなかった。【情報提供とインフォームド・コンセントの受け止めの確認】について現在は看護師が口頭で情報提供を実施しているため、パンフレットやクリティカルパスなどの共通の媒体を用いることで、術前から術後の状態について精神的な準備や術後に受ける衝撃の緩和に繋がるのではないかと考える。【安心感の強化】について、術後の患児に触れていいのか、おむつ交換や食事の介助などに不安を抱えている付き添い者と看護ケアを一緒に実施していくことは、付き添い者としての役割を回復出来ると考える。【情動支援】について、不安というものは漠然としたものであり、明確化することが難しいと考える。そのため、付き添い者の性格や家族・社会背景など情報収集・アセスメントを行った上でそれぞれのニーズに合った環境づくりや共感する姿勢が重要であると考えられる。

はじめに

当病棟では平成28年度から小児の先天性心疾患に対する手術(以下、心臓手術)が再開された。心臓手術は死へのリスクが高いことから、付き添い者の精神状態も大きく変化するため、付き添い者の不安に対する看護介入が必要不可欠であると考えた。しかし、付き添い者への看護介入の実際は、看護師個人によって異なり、可視化されにくいと感じ、心臓手術を受ける患児の付き添い者の不安に焦点をあて、看護師が行っている看護介入を明らかにした。

方法

- 研究デザイン: 前向き研究(無記名自記式調査)
- 研究期間: 平成29年9月～平成29年12月
- 研究対象者: 2017年9月20日時点でA病院小児科・思春期科病棟に在籍している看護師(2017年度に入職した看護師、研究者である3年目看護師は除外する)計22名
- データ収集: 同意を得られた研究対象者に自作の無記名自記式の質問紙を用い、付き添い者へ行った看護介入や理由などについてアンケート調査を実施した。

アンケート内容

- 質問1 心臓手術を受ける患児の付き添い者が不安を抱えていると思うか。
 質問2 付き添い者が抱える不安はどのようなものか
 質問3 質問2で回答した不安に対し、看護介入が必要だと思いますか。
 質問4 質問2で回答した不安に対し、どのような介入を行っているか。
 質問5 実際にどのような看護介入を行っているか。
 質問6 看護介入していない理由
 質問7 今後どのような看護介入が必要だと考えているか。

以上の質問を行い、質問5と質問7に重点を置いて分析を行った。

結果

- 1、属性
 ・看護師経験年数: 2年目～22年目(計21名、回収率91%)
 ・中央値: 看護師経験年数5年目
- 2、アンケート結果

| | はい | いいえ |
|-----|------|-----|
| 質問1 | 100% | 0% |
| 質問3 | 100% | 0% |
| 質問4 | 85% | 15% |

付き添い者の不安

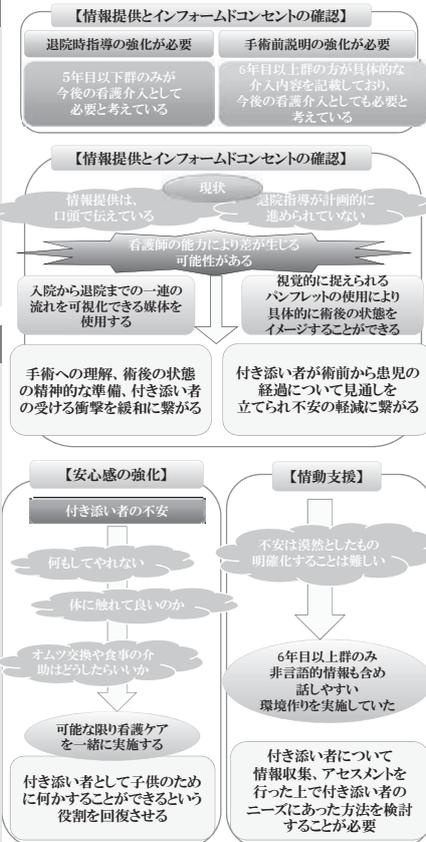
| カテゴリー | サブカテゴリー |
|--------------|--|
| 【手術に対する脅威】 | 手術に対する不安 合併症に対する不安 術後の状態についての不安 患児の疼痛に対する不安 ルート・ドレーンに対する不安 |
| 【術後の変化に伴う不安】 | 術後の生活についての不安 退院後の生活についての不安 その他 |

| カテゴリー | サブカテゴリー | コード |
|--------------|------------------------------|---|
| 情報共有と受け止めの確認 | 術前の説明を実施する | 「ドレーン類の計画外除去予防の説明」 「今後予定・予測していること、児の影響や医療者が何をやるかの説明」等 |
| | ICの理解状況の確認 | 「医師の説明を正確に理解できたか確認する」 「医師に確認できるものは調整して解決しておく」 「付き添い者の聞きたいことを質問できたか確認」 |
| | 患児の状態に関する情報を付き添い者に提供する | 「患児の経過や現状について話せる範囲で伝える」 「良くっていると伝える」等 |
| | 退院時指導 | 「退院日に退院指導を実施する」 「入院前の生活状況を考えながら具体的に退院指導を実施する」 |
| 情動支援 | 不安の確認 | 「付き添い者の言動行動、表情が不安に思っているか」等 「付き添い者の言動行動、表情が不安に思っているか、何が必要かを考える」等 |
| | 傾聴 | 「手術前に話を聴く」 「感じていることを聞く、不安に感じているであろうことを聞き出し共感・傾聴する」等 |
| 安心感の強化 | 疼痛に対して付き添い者が不安に思っていることに対する介入 | 「薬剤対処ができること、苦痛を釣り下げることができる」 「疼痛や心不全徴候について観察し、付き添い者が客観的な情報から安心できるよう関わる」 |
| | ケアへの参加を促す | 「看護師と一緒に付き添い者にケアの参加を勧める」 「付き添い者にできることやしてほしいことを伝える、可能であればケア参加を促す」 |

| カテゴリー | サブカテゴリー | コード |
|--------------|-----------------|--|
| 情報共有と受け止めの確認 | 術前の説明を実施する | 「術前の説明では、手術後の流れを具体的に伝える」等 |
| | ICの理解状況の確認 | 「IC後の理解度の把握と疑問を解決できるように術前説明する」等 「通常の経過を述べていることを説明する」等 |
| | 退院時指導 | 「退院後の生活についてパンフレットを用いて指導する」等 |
| 情動支援 | 不安の確認 | 「不安を明確にし、軽減できるよう介入を行うこと」 「手術についての思いを聴く」 「術前より家族の話をゆっくり聞く」 |
| | 傾聴 | 「手術について話し合い、不安を軽減できるかどうかは評価が難しい。付き添い者の不安という気持ちを出せる環境を整えるのがまず大事」 |
| | 不安を表現しやすい環境を整える | 「不安という診断は難しいし介入を考へても、不安が軽減できるかどうかは評価が難しい。付き添い者の不安という気持ちを出せる環境を整えるのがまず大事」 |
| 安心感の強化 | ケアへの参加を促す | 「退院後の生活についてパンフレットを用いて指導する」 |
| その他 | 情報共有 | 「術前の家族の不安や悩みなどあるため話を知りたい。医師との情報提供やケアプランなどを行う」 |
| | 学習会 | 「手術や術後の経過を理解して関わることも出来るように」必要な介入ができる」 |

考察

A病院小児科病棟の特徴
 入院～術前、術後回復期は全スタッフが対象
 ICUから転棟直後の急性期は3年目以上が担当している。



結論

- ・看護師が考える付き添い者が不安に思う内容は【手術の脅威】と【術後に伴う変化】である。
- ・看護師が実践している看護介入は【情報提供とインフォームド・コンセントの受け止めの確認】や【情動支援】や【安心感の強化】があげられた。
- ・付き添い者が不安を抱えていると考え、様々な看護介入を行っていた。

謝辞・参考文献

本研究の実施にあたりご理解とご協力を頂きましたA病院小児科・思春期科病棟の看護師の皆様方に心から感謝致します。

参考文献
 ・古澤陽子 入院している子どもに付き添い家族に関する文献検討。福島県立看護学部。紀要。8、39-40(2006)。
 ・宮本千史 他。先天性心疾患手術を受ける乳幼児を持つ母親の思い。日本小児看護学会誌Vol15、No1、P9-16、2006。
 ・原口昌弘 他。心臓外科手術を受けた短期入院患児と家族のための退院指導確認書の作成。小児保健研究。P446-451、2012
 ・藤内美保 他。看護師の臨床判断に関する文献的研究。臨床判断の要素および熟練度の特徴。日本職業・災害医学会誌53巻4号、P213-219、2005
 ・今西誠子ら。入院児に付き添う母親のスピリチュアルベインについての一考察。中京学院大学看護学部紀要。第4巻第1号、P1-12、2014
 ・岸基子ら。児童思春期病棟に入院中の子どもと家族支援を考えた。第22回日本精神科看護学会会報門1、P28-32
 ・廣井青美ら。付き添う母親の疲労に対する熟練看護師の介入の視点。日本小児看護学会誌。P62-69、2011